

学校感染症一覧

●第1種学校感染症● 治癒するまで出席停止とする。

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、マールブルク病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、南米出血熱、重症急性呼吸器症候群、痘そう、中東呼吸器症候群、特定鳥インフルエンザ、指定感染症および新感染症

●第2種学校感染症● 出席停止期間については守る。診断がついたら速やかに学校へ連絡する。

病名	出席停止期間	おもな症状	侵入経路	潜伏期間
インフルエンザ (特定鳥インフルエンザを除く)	発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで	急な発熱、頭痛、全身倦怠感、関節痛、鼻水、咳	飛沫接触	1~5日
百日咳	特有の咳が消失するまで 又は、5日間の適正な抗菌物質製剤による治療が終了するまで	はじめは普通のかぜ症状で始まり、次第に特有の咳(コンコンという連続した咳の後、息を吸う時に、ヒューという笛音が出る)が出てくる。	飛沫接触	7~10日
麻疹(はしか)	解熱した後3日を経過するまで	発熱、咳、鼻水、結膜炎。頬の内側に白い斑点(コプリック斑)ができる。発熱後4日より皮膚に発疹。	飛沫接触	10~12日
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺の腫脹が出現した後5日を経過し、全身状態が良好になるまで	唾液腺の腫脹、圧痛、えん下痛、発熱	飛沫接触	14~18日
風疹 (三日はしか)	発疹が消失するまで	発熱、赤い発疹、リンパ節腫脹(耳・首の後ろ、後頭部の下などが腫れる)	飛沫接触	14~21日
水痘 (水ぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで	発疹(紅斑・丘疹・水疱・痂皮)が体の中へ次々と出る。かさぶたとなり先に出たものから治っていく	飛沫接触	10~21日
咽頭結膜熱 (プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで	発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、のどの痛み、結膜充血、眼痛、流涙等	気道 結膜接触	5~7日
結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで	初期は自覚症状なし。X線検査で発見されることが多い。倦怠感、寝汗、発熱、体重減少、咳、痰、胸痛	飛沫	1~2ヶ月
髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで	頭痛、発熱、けいれん、意識障害、髄膜炎徴候	飛沫	3~4日

●第3種学校感染症●

病名	出席停止期間	おもな症状	侵入経路	潜伏期間
流行性角結膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで	流涙、眼瞼の浮腫、結膜炎	接触	8~14日
急性出血性結膜炎		目の強い痛み、充血、めやに	接触	24~36時間
腸管出血性大腸菌感染症(0-157)		水様性下痢、激しい腹痛、血便	経口	3~5日

腸チフス、パラチフス、コレラ、細菌性赤痢、**その他の感染症**(マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナなど)